

第44号すこやかさん活用法！

本号の効果的な使い方を紹介します。

一人でもできる使い方



- ・9つのコツをもとに日頃の自分を振り返る。
- ・既に何気なくやっているコツについて、解説編を読んで意味付けをする。
→解説編は[こちら](#)
- ・9つのコツから1つ選び、その1つを意識して一日を過ごしてみる。
- ・手本になる人を見つけて、真似をする。
- ・特定の子供との関係に当てはめて、9つのコツを振り返る。



複数人ならでの使い方



- ・いろいろな感じ方や受け止め方、いろいろな先生の工夫を発見する。
- ・皆で10個目、11個目のコツを考えてみる。
- ・他の先生から、特定の子供との関わりについてアイデアをもらう。

日々の関わりの積み重ねが、子供の安心感や信頼感につながります！



第44号をもっと詳しく解説してほしい、過去号と合わせて研修してほしい、個別具体的な事例についての活用を教えてください等の御希望も受け付けます！

東京都教育相談センターの公立学校支援

研修会の講師

- ・教育相談の基礎・基本
～日々の子供との関わり～
- ・発達障害のある子供の理解と支援
- ・自傷・希死念慮のある子供の理解と支援 など

その他、お電話でも、心配な児童・生徒の理解や対応について御相談を受け付けています。

▶「すこやかさん」過去号については[こちら](#)



事例検討会（ケース会議）の助言者

- ・校内で対応に苦慮する児童・生徒との関係の築き方（自傷・他害、集団逸脱など）
- ・関係機関との連携会議への同席 など



広報

すこやかさん



◆児童・生徒との信頼関係を基盤とした教育相談

■生徒指導提要の改訂

令和4年12月、生徒指導提要について12年ぶりの改訂が行われました。今回の改訂の基本的方向性としては、積極的な生徒指導の充実、個別の重要課題を取り巻く関連法規等の変化、新学習指導要領やチーム学校等の考え方の反映が示されています。

生徒指導提要では、生徒指導の定義として「児童・生徒が、社会の中で自分らしく生きることができ存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のこと」と記されています。つまり、これからの生徒指導は、教職員が児童・生徒の成長を信頼し、その道筋を支える存在になるということです。

■生徒指導と教育相談

生徒指導提要には、教育相談は、生徒指導から独立した教育活動ではなく、生徒指導の一環として位置付けられるものであり、その中心的な役割を担うことと示されています。

そして、教職員が教育相談を行う際、以下の姿勢が求められています。

- ①指導や援助の在り方を教職員の価値観や信念から考えるのではなく、児童・生徒理解（アセスメント）に基づいて考えること
- ②児童・生徒の状態が変われば指導・援助方法も変わることから、あらゆる場面に有用する指導や援助の方法は存在しないことを理解し、柔軟な働きかけを目指すこと
- ③どの段階でどのような指導・援助が必要かという時間的視点を持つこと

教育相談は、コミュニケーションを通して児童・生徒に気付きを促し、悩みや問題に対して支援する働きかけです。効果を高めるためには、教職員と児童・生徒の信頼関係が不可欠です。改めて日々の実践を振り返る際に、本紙を参考にいただき、児童・生徒との信頼関係を基盤とした教育相談を行うための一助となれば幸いです。

あなたは今年から新しく学級担任になりました。やや落ち着きのない学級で、問題が起きる度に子供に向き合い解決に努めています。しかし状況はなかなか変わらず、日々子供の対応に頭を悩ませています。周りには、4人の先輩教員がいます。

A先輩: とても寡黙な
 B先輩: 厳しさは優しさ
 C先輩: 自分の話が大好き
 D先輩: 悩みがなさそう

A先輩: ...
 B先輩: それくらいできて当然よ
 C先輩: 疲れたなー。俺なんか今朝からさ、
 D先輩: そんなのたいしたことないって！

「話を聴いてほしい」と思い浮かべるのはどのような先輩ですか？



教職員等からの専用回線 受付時間：平日午前9時～午後5時（第2・第4水曜日午前9時～午後9時）

03-3360-4160 匿名の御相談も可能です。まずは、お気軽に御相談ください。

子供と安心感・信頼感のある関係性を築くための心構え ～今すぐできる関係づくり 9つのコツ！～

私たちが、悩んでいることや困っていること、何か大事なことについて「この人に話してみようかな」という気持ちになるためには何が必要でしょうか。気持ちを打ち明けること自体には怖さが伴います。なぜなら、「自分は受け入れてもらえるのだろうか」という自己の存在の認否につながると感じてしまうからです。これは、子供も同じです。子供が感じたまま話す、思っていることを素直に伝える、助けてほしいと SOS を出す、そのためには「先生に話しても大丈夫」、「先生ならきっと聴いてくれる」という安心感や信頼感のある関係性が非常に大切です。そこで今回は、日常の学級運営の中でできる関係づくりの工夫を御紹介します。

名前を呼ぼう

日々の挨拶やちょっとした声掛けなどの際、「〇〇さん、おはよう」などと最初に子供の名前を呼びましょう。先生が名前を呼ぶことで、「たくさんの子供たちの一人」ではなく、「自分のこと」を見てくれていると感じます。



アイコンタクトの魔法

教室に入ったときや教壇の前に立ったとき、気掛かりな子供に、さりげなく柔らかな視線を送り、アイコンタクトをとることで、子供は「先生が自分のことを見てくれている」と感じるかもしれません。



褒める > 叱る

子供の気になる言動は目につきやすく、声掛けをすとなると注意ばかりになりがちです。注意より1個でも2個でも多く、褒め言葉をかけるよう意識しましょう。



「知ってるよ」をさりげなく

日頃から、子供の好きなことや興味のあることを知ろうと情報のアンテナを張っていることと思います。しかし、ただ覚えているだけでは関心があるということは子供には伝わりません。子供と話す時には、その子供の興味や好きなことをさりげなく話題に上げ、共有しましょう。



ペースを合わせよう

共感言葉だけではなく表情でも示すことができます。また、子供がゆっくり話す時は、教員も相づちをゆっくりと打つ、子供が悲しそうに話しているときには悲しそうな顔をする、嬉しそうときには笑みを浮かべるなど、子供のペースに合わせることで子供は安心を感じます。



「いいね！」のチャンスは逃さない

子供が良い行動をしたときには、その場で素早く反応しましょう。声を掛けて褒めることはとても大事ですが、それも難しいときには、ジェスチャーを用いて笑顔で「いいね！」と示す等の簡単なリアクションをするだけでも、「先生が見てくれている」ということは子供に伝わります。



無理な約束はやめよう

子供に「あと5分待ってね」「あとで話そうね」と言ったものの、結局時間をつくれなかった、ということはありませんか。子供と約束をするときには、一呼吸いれて「確実に約束を守るか」を意識すると良いでしょう。



発言をひろおう

子供の発言が教員の期待するようなものでなかったり、その場では少し外れていたりしても、前向きな言葉や態度で受け止めましょう。日頃から発言をひろってもらえると感じることは、子供が思いを発信するために必要な安心感につながります。



時間を決めよう

相手の思いをくみ取りながら話を聴くことはとても大変なことです。「15分は話を聴く」等、エネルギーをかけられる時間をあらかじめ決めて、見通しをもって話を聴く方が、結果的に15分話を聴くことになるよりも、全力で話を聴くことができ、子供を分かろうとする教員の姿勢もより子供に伝わります。



気持ちを話せる関係性は、日々の関わりの積み重ねでつくられます。上記のコツに共通しているのは「〇〇さんのこと、見ているよ」という、温かなメッセージです。子供の感じ方を意識しながら日々関わりを重ねることで、関係性は一段と深まります。全てを実施できなくても大丈夫です。無理なく自然に出来そうなところから取組めると良いですね。

9つのコツの詳しい解説は [web版](#) でチェック！

